

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2020-1028	利用 形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:三世代コホート参加者のうち、血圧を測定している未成年者 約2,000人 試料:なし 情報:基本情報、調査票情報、生理学的検査情報、SNPアレイ情報	
主たる研究機関	University Medical Center Groningen			分担 研究機関	東北メディカル・メガバンク機構	
研究題目	小児の血圧値関連SNPの国際比較			研究期間	2021年1月～2022年1月	
実施責任者	ティアン・シエ ハロルド スニーダー	所属	University Medical Center Groningen		職位	博士課程学生 教授
研究目的と意義	<p>血圧が高値であることは、脳血管疾患や慢性腎臓病の主要なリスクであり、毎年9百万人の死亡に寄与していると報告されています。特にお子さんの血圧高値は成人期にも移行する場合があります。早期発見による治療や予防を見据えた要因の検討が重要と考えられます。過去のゲノム解析研究では、ヨーロッパの人々を中心に50 か所以上の遺伝子座の関連が報告されていますが、お子さんの血圧については報告が限られています。本研究では、オランダのフローニンゲン大学が他の研究機関と共同で実施するお子さんの血圧と関連するゲノム情報の統合解析に参加し、ヨーロッパの人々を中心として得られた統合解析の結果と三世代コホート調査に参加されている18歳未満のお子さんのデータでの解析結果を比較してお子さんの血圧に関連するゲノム情報の民族間の違いを検討します。</p>					
研究計画概要	<p>本研究は、東北メディカル・メガバンク計画三世代コホート調査に参加して10歳時調査、16歳時調査を受けられた方のゲノム情報、調査票情報、生理学的検査の情報をを用いて実施いたします。研究に使用する情報は三世代コホート調査で既に収集済みの情報のみを用います。情報の取得・解析は東北メディカル・メガバンク機構のスーパーコンピュータ内で実施いたします。さらに、解析により得られた結果をフローニンゲン大学で収集している諸外国の解析結果と比較いたします。</p>					
期待される成果	<p>小児の高血圧は、成人期にも移行することが報告されており、脳心血管疾患等のリスク増加が懸念されます。本研究の結果、関連遺伝子が明らかになり、かつ民族間での結果も比較することにより、個々人の体質を考慮した予防・治療法を検討することが期待されます。</p>					
これまでの倫理 審査等の経過	2021年1月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	<p>情報の利用は、ToMMoスーパーコンピュータ内で解析を行い、本研究で得られた解析の結果を諸外国の解析結果と比較するため、解析で得られる下記の情報と付随する情報を提供いたします。なお、個人が特定される情報は含まれません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解析の方法や遺伝情報を調べた方法 ・解析の結果得られた血圧・心拍数と関連のある遺伝情報の違いや影響の度合いの指標 ・収縮期血圧、拡張期血圧、平均血圧、脈圧、心拍数の要約統計量 ・対象人数、性別、年齢分布 					
その他特記事項	東北メディカル・メガバンク事業					
*公開日	令和3年2月8日					